

■岩山敬義 実務官僚。駒場農学校初代校長、下総御料牧場の初代場長、明治政府の勸農畜産政策を担い、“日本牧羊の父”の称。

いわやまたかよし

蚕社の獄・1839＝ 鹿児島で、薩摩藩家老座書役の岩山八郎太直温の長男に生まれる。幼名は十郎、長じて、直樹、壮八郎。

阿部正弘首座1845＝ 6歳：

・・・・・・1848＝ 9歳：

万次郎帰国・1852＝13歳：薩摩藩主島津斉彬の小姓に抜擢され、

ペリー来航・1853＝14歳：

蕃書調所・1857＝18歳：

五ヶ国条約・1858＝19歳：斉彬の死去後、斉興の小姓になるが、

安政の大獄・1859＝20歳：斉興も死去したため、表方吏員から薩兵隊副隊長になる。

桜田門外変・1860＝21歳：

禁門の変・1864＝25歳：開成所読師で、のちに外務官僚として活躍する上野景範から、

薩摩藩士密航1865＝26歳：父は、この年、西郷隆盛の二番目の妻になった糸子の父の兄であり、隆盛とは義理の従兄弟になった。

薩長同盟・1866＝27歳：藩が雇用したフランス陸軍士官から騎兵諸科の伝習を受けて、卒業とともに、騎兵隊長となって200余名を統轄。続いて、_英学を学んだ嵯峨根良吉は、緒方洪庵の道塾に学び、江川英龍から江戸に招かれるほどの人物で、軍艦に搭乗して鹿児島を訪れて、島津斉彬に謁したことが縁で、この年、寺島宗則の推挙で、薩摩藩士子弟の教育に当たることになり、

大政奉還・1867＝28歳：「時勢改革についての建議書」を提出、認められて藩士になり、イギリス海軍の法規類の翻訳を行ううち、

明治維新・1868＝29歳：大久保利通に書簡したのを最期に、死去してしまうが、自ら高く評価する嵯峨根が、「建議書」を提出し、その一つに、毛織物振興を挙げていたのを受け継ぐように、

戊辰戦争終・1869＝30歳：職を失った士族の救済のため、民部官に物産司が設置され勸農政策が始まる。古来の日本の農政を研究、

初の日刊新聞1870＝31歳：尺振八が創設した共立学舎で英学で学び、塾監。***牧羊場の創設に関する建白書を提出、認められて、**

薩藩置県・1871＝32歳：_民部省地理司権少佐准席に採用されるや、農事取調御用として、アメリカ合衆国に派遣され、農業・畜産・牧羊について学ぶ。民部省廃止に伴い大蔵省勸農少属に転じて、カリフォルニアの牧畜家のもとで実地研修するうち、岩倉使節団のサンフランシスコ到着に伴い、以後同行、この間、使節団の一員、薩摩の先輩大久保利通にも、牧羊のことを熱心に話していたようだ。ワシントンでは、農務省で農政に関する調査、その他各地の農事・牧畜を視察、当時の日本では牧羊はあまり知られていなかったが、

学問のすすめ1872＝33歳：この年新政府に招聘された外国人ル・ジャンドルが軍用毛布のため羊毛の自給の必要性を説いている。_アメリカ人牧羊家アップ・ジョーンズが、岩倉使節団のサンフランシスコ到着の新聞記事に心を惹かれて来日し、江原素六の依頼で、旧幕臣らを救済すべく、静岡で牧羊場建設調査している年、さらに、渡英し、イングランド、スコットランドで農事・牧畜の視察や実地研修に励むうち、大蔵省勸農寮が廃止になって租税少属になってしまったところに、

明治6年政変 1873＝34歳：_この年内務省を設立、自ら内務卿に就任し、大久保から、直ちに帰国して、牧羊の専門家として仕事するよう命じられ、各種の綿羊や牛、牧草種子、農機具や農書などを買い入れて、帰国。大蔵省租税大属に任じられ勸業課勤務、租税寮試験場の事務一切を取り仕切るうち、

佐賀の乱・1874＝35歳：_大久保が、大蔵省から勸業寮を移して、内務省に勸農寮を設置するとともに、勸業権助に抜擢され、勸農関係の事実上のトップになった、前年に設立されたばかりの内藤新宿試験場(現在の新宿御苑)長にもなる。内藤新宿試験場内には、農業に関する資料を収集し、一般に公開する役割を持ち、農事修学場としても使用され、農業教育に寄与する博物館のようなものも設置される。アップ・ジョーンズは、この年、自費で関東地方を回って、牧羊業に適した土地を調べ、綿羊業についての意見書を大久保に提出、外国人の営利事業は認められなかったが、政府の事業とすれば支障が無いとされ、ジョーンズを主任技師に設置された牧羊開業取調掛の長官に抜擢され、日本初の本格的な牧羊場経営に取り組む。農学校設立のため、外国より農学・農芸化学・獣医学の教師を招聘するなど、準備するうち、

初の民間工場1875＝36歳：***大久保みずからの実見で、下総三里塚の、徳川時代に佐倉七牧と呼ばれ、維新による窮民移住の開墾地だった土地の一部を購入、内藤新宿試験場内、牧羊開業取調掛が置かれ、大久保が言うところの「輸出ヲ盛大ニシ輸入ヲ防御スル」役割のうちでも、新町紡績所・千住製絨所と並ぶ三大事業として、多額の資金が投下され、下総牧羊場(あわせて取香種畜場も)が開業、その初代場長になり、アップ・ジョーンズは七菜村に移住、早速、米国より種馬29頭を導入。英国より種馬4頭寄贈。国内から吾妻を含む21頭を導入。**

三つの反乱・1876＝37歳：東北地方(旧南部藩)から牝馬350頭を導入し、清から綿羊を輸入。この年より、_各府県から一人ずつ生徒を募って、牧羊方法、牛馬豚管理方法、西欧農具用法などの講義と実習を行い、全国への展開を図るなど、下総牧羊場の規則を定めているが、原毛供給基地というより、模範牧場(モデルファーム)であった。

西南戦争・1877＝38歳：万博開催はまだ無理と、大久保の主導で、それに代わる第一回内国勸業博覧会が開催される。_アメリカやオーストラリアより綿羊を輸入するなどして、本格的な繁殖育成が始まった矢先、予想されなかった伝染病が発生して甚大な打撃を受け、計画は大きく狂って行く。

大久保暗殺・1878＝39歳：千住製絨所が操業を開始した年、大久保が_駒場に土地を得、内藤新宿試験場の一部を移して、駒場農学校が開校し、取香種畜場には、日本初となる獣医科を設置したが、アップ・ジョーンズが牧羊場の官舎で賊に襲われて重傷を負い、内務省やアメリカ公使館の関係者、新勝寺真主が見舞いに駆け付ける。

琉球処分・1879＝40歳：結局_一期生みの卒業に終わったが、ほとんどが府県の官吏になって{東洋農会}を結成。アップ・ジョーンズは解職になって、下総牧羊場での事業は頓挫、自らは、内務権大書記官に任命され、

・・・・・・1880＝41歳：下総牧羊場は、取香種畜場と合併して再建されることになり、下総種畜場と改称されてしまう。

明治14年政変1881＝42歳：{東洋農会}が{東京談農会}などと合流し、大日本農会が誕生。_新設された農商務省の権大書記官に転出。

新体詩抄・1882＝43歳：_創立された大日本農会の幹事となる。

秩父事件・1884＝45歳：_畜産諮詢会を設立し、会頭に就任。

内閣発足・1885＝46歳：宮内省御用掛に任命され、製糸諮問会会頭。_駒場農学校校長に就任し、日本の農学教育の礎を築く。

帝国大学始・1886＝47歳：***農商務省農務局長を務め、農政・畜産・製糸・製茶など広範な分野に関与するなど、維新初期の勸農政策の実務官僚ネットワークの核になって、重要な役割を果たしてきた。**

国民之友始・1887＝48歳：勲五等双光旭日章。元老院議員を経て、_宮崎県知事に就任、

帝国憲法発布1889＝50歳：

帝国議会始・1890＝51歳：この年、駒場農学校が帝国農科大学になる。勲三等瑞宝章、

足尾鉞毒始・1891＝52歳：_石川県知事に転じたが、

大本教・1892＝53歳：_在職中に、没した。品川海晏寺に葬られる。

10年後、境内に顕彰碑が建てられ、松方正義の撰で、功績が漢文で記されている。下総牧羊場は、後に御料牧場になり、アップ・ジョーンズが住んでいた官舎が移築され、改装されて貴賓館になったが、それを含む跡地の一部が、現在、三里塚記念公園になり、御料牧場記念館も設置されている。

{農村研究}の友田清彦論文「農政実務官僚岩山敬義と下総牧羊場」を軸に、Wikipedia「岩山敬義」、北岡伸一「明治維新の意味」、成田市ホームページ「ゆかりの人々」で追補、